



第61回

アジア座



「福岡にはアジアに近い」という地の利がある。今が頑張りと「と」を話す江崎さん

韓国に日本酒を輸出する

江崎 俊介さん

48

(福岡県みやま市)

元気です。

和食ブームで新たな展望

江戸期に創業した老舗酒造会社「菊美人酒造」の9代目。世界的な和食ブームを市場拡大の好機ととらえ、お隣の韓国に日本酒の輸出を始めて1年がすぎた。

日本酒の国内消費量は焼酎やビール類に押され、減る一方だ。大手も海外市場の開拓に躍起だが、「(大手には)量と安さではかなわないけれど、(顧客を)点で押さえる

地道な取り組みを続けることで、新たな展望を切り開きたい」と話す。きっかけは、自治体国際化協会のソウル事務所などが2008年秋に現地で開催した商談会。日本酒造組合中央会から打診があり、思い切って参加した。韓国といえは「真露」

に代表される焼酎の国。ウォン安に加え、「日本で1000円の商品が約5倍になる」という高関税も障壁として立ちほだかっていた。それでも「壁はいずれなくなる。その時までには足場を築いておく意味はある」と考えた。09年7月に720リットル・リットル

算で約500本を送り出して以降、これまでに同量を6回出荷。ソウルの新世界百貨店などで扱ってもらっている。「次は中国」。近く北京を訪ね、新たな商談に臨む。

(文と写真 秋吉直美)